

タイトル:「有機菜園の社会的意義と可能性～持続可能な社会への転換に向けた『菜園を基軸とした学び』(Garden-based Learning)の潜在力を考察する～」

セッションの趣旨

「コロナ禍」があぶり出したフードシステムの脆弱性とその影響が深刻化する現代において、持続可能で公正なフードシステムへの転換を後押しする多様かつレジリエントな取り組みの重要性が増している。このような文脈の中、本セッションでは有機菜園がもたらす学びに焦点を当てる。かい離した農と食をつなげ、子どもや若者の生態系リテラシーや農業リテラシーを高め、持続可能性を見据えた批判的思考力や創造力、実践力を培う教育ツールとして注目を浴びている有機菜園は、持続可能で公正な社会への転換に向けてどのような潜在力を持っているのだろうか。学校菜園、高等教育での菜園、コミュニティガーデン(市民農園)の現場からの報告をもとに、その社会的意義と可能性を考察する。

(1) 趣旨説明 座長：山本奈美(京都大学大学院)

(2) 話題提供

1. 澤登早苗(恵泉女学園大学)

「有機菜園の社会的意義と可能性—日本版“The Growing Classroom”, 恵泉生活園芸 “Life Gardening”の経験から—」

2. 堀口博子(一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン)

「子どもたちの未来をつくる教室：エディブル・スクールヤードから見える持続可能な生き方と発展的食育の成果」

3. 金子信博(福島大学食農学類)・根本敬(あだたら食農 school farm)・渡邊芳倫(福島大学食農学類)

「有機、不耕起の参加型実証農園での学び～あだたら食農 school farm の経験から」